

# デジタルアーキビストとは

## デジタルアーキビスト資格に関する中間まとめ(資料)

2024年6月

デジタルアーカイブ学会人材養成・活用検討委員会

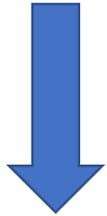
# デジタルアーカイブとは

## 定義

「様々なデジタル情報資源を収集・保存・提供する仕組みの総体」

(デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会)

デジタル化した情報を蓄積し、継続的に提供・活用することで社会や生活の質を向上



- 図書・行政文書・議事録・写真・映像そのものと、その説明データ（メタデータ）
- ゲーム、マンガ、アニメなどの日本の強みを持った文化
- 企業や団体の活動記録

## メリットと課題

- 文化資源活用によるクオリティオブライフの実現
- 産業における過去資産の活用と生産性の向上
- 組織・業務プロセスの保存活用による、意思決定の質向上
- 防災対策・リスクコントロールの充実
- 消費社会から新しい創造社会への転換
  
- コンテンツの急速な拡大・総合化・多様性→無秩序化のおそれ
- 技術的な進歩が著しい→ガイドできる人材があらゆるコミュニティ(産官学)に必要

新時代における国家の社会基盤として、将来にわたり蓄積・維持・活用が求められる→それを担う人材が必要

# 背景となる事例

## 事例1 「デジタルデータは永遠」は迷信。長期保存への対応が必要。

- 東日本大震災の発災時、関連するほとんどのデータがデジタルで作成・保存
- 被災地発信のデジタルアーカイブが多数作成
- 現状は、メディアの劣化、情報環境の変化、運営主体の持続困難に直面している
- 同じことが、この四半世紀の情報が蓄積されている全国各地の地域社会・自治体・大学等で発生

## 事例2 情報の海に溺れる社会で、的確な情報収集と提供が必要。

- 多くの主体が多様な情報を発信することは重要
- 一方、根拠がない情報発信によって混乱を招く事態が、コロナ禍とウクライナ戦争で出現
- 発信される情報を広く的確に収集すること
- 適切な情報を選別する目と情報をわかりやすく見せる技術を持つ人材が不可欠

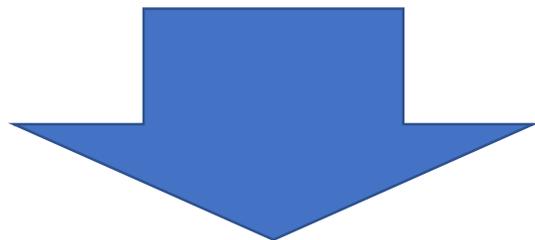
このままでは、デジタルで主要な情報が作成されるようになった1990年代以降の日本の情報は極一部しか遺らない → **新たな暗黒時代の到来**

### 海外の動向

EU・中国・韓国・台湾などでは、Googleなどの巨大プラットフォームへの対抗や情報保障の観点から、国家規模のデジタルアーカイブとそれを扱う専門職が充実。コロナ状況も積極的に収集。シンガポールでも OneSearch によって国内の多様な文化情報が利活用可能。

# 求められる“デジタルアーキビスト” の国家資格化

- 各府省・地方自治体・産業界(各企業): **空白地帯**。重要なデジタルデータが滅失する前に、**国家資格保持者によって品質管理され蓄積されたデータの提供**によるデジタルトランスフォーメーションの確実な推進が必要。
- 図書館・博物館・公文書館のそれぞれで、デジタル資料マネジメントの一層の強化が必要(博物館法改正によって「デジタルアーカイブ」が博物館の業務のひとつに)。
- しかし、現状のライブラリアン(司書)・キュレーター(学芸員)・アーキビスト(公文書館専門職員)の養成課程では、デジタル資料への対応はまったく不十分。



**デジタルアーキビストの国家資格化と養成が必要**

# デジタルアーキビストに求められる資質

～新時代のデジタルアーカイブを「担う」人材～

## 理解

国内外の理論的・技術的動向を把握し、現場でリーダーシップを発揮できる。

- ・対象コンテンツへの広く深い理解
- ・権利処理などの法的知識と柔軟な応用力
- ・新技術を次々に取り入れ利活用できる能力

## 運営

継続的なデジタル情報の利活用のため、リソースをマネジメントできる。

- ・リソースを適切に見極めながら、デジタルアーカイブを持続出来る形で構築し運営する
- ・網羅性へのこだわりを捨て、ポイントを絞ってリソースを投入
- ・ビジネスとしても、機会を機敏につかみながら持続可能な形で運用

## 連携

他の機関・活動との連携を行い、情報の利活用を推進できる。

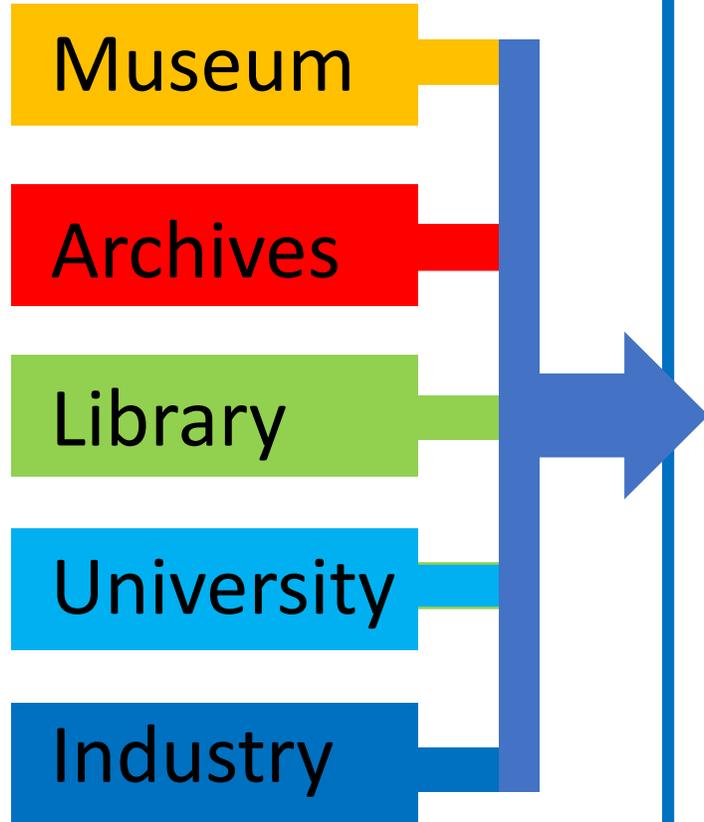
- ・特に学校教育・社会教育の場で積極的にデジタルアーカイブを活用
- ・行政のなかでの連携 : 情報の管理・蓄積・長期運用を担当／行政職員は目の前の業務にリソースを集中
- ・地域の各種活動との連携 : 各種活動が生み出した地域情報の管理・蓄積・長期運用をサポート

## 普及

ミッションをもって活動し、社会に貢献できる。

- ・社会のあらゆる場面に「情報を整理・蓄積して利活用する」という発想を広めていく存在
- ・その際、デジタル社会を主導する人材として、情報取扱のルールや倫理もあわせて普及
- ・各分野・各地域・各業界の情報交流により蛸壺化からボーダレスの意識改革へ

# デジタルアーキビストの活躍の場



## デジタルアーキビスト

文化資源のバイヤー／セールスマン

→文化や産業にかかわる資源を発掘し売り込む

企業への積極的働きかけ

→企業の歴史、企業文化のアーカイブ化、データと過去の活動を踏まえたイノベーション

新しいムーブメントを仕掛ける

→デジタル情報の空白地帯を埋める

行政資料・行政文書などの適切なデジタルアーカイブ化

→重要な行政情報を永続利用できるように

デジタル情報のつなぎ役

→地域から世界へ世界から地域へ、広範な活躍

基礎自治体～広域圏～都道府県～国～世界